調 査

蒲田の栄養摂取量調査に就いて (第2報)

Nutrition Survey in Kamata (2nd Report)

東京都蒲田保健所

十 龜 國 子 (Kuniko Sogame)

1. 緒 言 さきに著者は、蒲田地区の栄養摂取状況について報告したが、今回は家庭の栄養摂取状況と學童の成績との関係を調査し、一部その成績を得たので発表することにした。

2. 方 法 前記被調査世帯の學童に就いてその學業成績をしらべて、優を3點、良を2點、可を1點と假定して、要因分析法及び無相關檢定法を適用し、次の如き成績を得た。

3. 成 績 (1階級、期間、地域別の兒童の成績状態は第1表の如くで、之を分散分析法により有意性をみると第2表の如くなる。

第1表 學童の成績表

地区	階級	期 間		
		1 ~	2	3
六 郷	上	優 (3)	優 (3)	優 (3)
	中	優 (3)	優 (3)	良 (2)
	下	優 (3)	可 (1)	可 (1)
花 谷	上	優 (3)	優 (3)	優 (3)
	中	優 (3)	良 (2)	優 (3)
	下	可 (1)	可 (1)	可 (1)

括弧内は假定の點數

第2表 各種栄養摂取の要因分析と學童成績の要因分析の比較

要 因	自由 度	不 偏 分 散 推 定 値				
		總熱量	總蛋白	動物蛋白	脂 肪	學童成績
地 域	1	57	678	16	133	1
階 級	2	85 *	1778 *	491	364**	47 *
期 間	2	4	432	331	82	5
地 × 階	2	16	362	76	7	2
地 × 期	2	4	172	451	5	4
階 × 期	4	31	591	177	216	2
誤 差 項	4	13	198	180	12	4

(*は5%以下の **は1%以下の危険率を示す)

即ち、各種栄養摂取量の要因分析の結果と同様に、階級間においてのみ明瞭に有意の差が認められた。

(2) 次に地域、階級、期間の要因を考慮せずに、單に栄養摂取量の多少と成績との相關性を無相關檢定法によつて檢定を試みた。即ち栄養摂取量の總和とみなされる總カロリーと、その質の良否を左右する動物性蛋白について、前者は2400 cal (成人換算) 以上の者と以下の者、後者は30g (成人換算) 以上の者と以下の者に分類して比較検討し、動物性蛋白と學業成績の間

には相關關係が存在する事を認め得た。

3. 總 括 以上の如く、第2表の階級間における有意の差は如何なる要因の差異に依り惹起されるか、又その原因となる要素は單に榮養の攝取量の多いと云う事のみならず、外的環境による影響も多分に含まれていると思われるが、內的環境を左右する榮養の影響も多分に認め得ると思惟される。

尙、その榮養攝取の狀態が量的よりもむしろ質的に差のある事が認められた點、即ち、成績の餘り優良でない子弟の家庭に於ても、總熱量の點においては成績の良い子の家庭に比較し、顯著に少いわけではないが、成績の良い子の家庭にては、動物性蛋白の攝取量が明かに大となつている。と云う結果が出た。

これについては今更事新しく述べる必要もない事ではあるが、現在の學校給食指導に當つては、階級的に攝取量の差の著るしい動物蛋白の補給に學校給食の第一主眼をおくべきであり、昨今の食糧事情の欠陥を榮養學的に補正する上にも是非必要な事であると考え。我々榮養士の學校給食に對する指導方針も、この點に集中して徹底的なる改善をはかるべきであると考えた次第である。

文 献

- (1) 小池・十龜・桑原：榮養學雜誌 6,36 (昭和23年)
- (2) 佐藤良一郎：少數例適用無相關檢定法 (昭和22年)